

日付： 2018 年 7 月 3 日(火) 10:00～12:00
場所： 電力中央研究所 大手町ビル 7 階 711 会議室
参加者： 熱水力 SWG 委員： 守田教授 (主査、九大 TV 会議参加)
幹事： 上田 (MHI)、山下、逢坂、中村秀 (JAEA)、
西、中村、宇井 (電中研)、岩城 (東芝 ESS)、
木藤 (日立 GE) 上遠野 (日立) (記)

配付資料

- 資料 1：熱水力 SWG 幹事会 議論用メモ
- 資料 2：熱水力ロードマップ 安全評価 SWG/熱水力 SWG 合同幹事会 議事録 (案)
- 資料 3：2018_5_17 議論の素材 (西幹事作成の各技術マップのリンク案)
- 資料 4：新たな「基盤技術」の技術マップ構成 (案)
- 資料 5：付録 1 シビアアクシデント SWG の技術マップ

議事

- 全体スケジュールについて、以下のように進める方針であることを確認。
 - 7 月中に SWG 委員会での議論に資する資料を準備する。
 - 8 月前半 (8/6PM に設定) に熱水力 SWG 委員会を開催する。
 - 2018 年秋の大会で RM 本体の委員会を開催する。
- 前回議論の「経済性向上を狙ったとしても、安全評価は必須となるのだから、安全だけ、基盤だけとはならない」を確認し、幅広く技術を取り上げることにする。
- 8 月の熱水力 SWG の委員会までに、旧 基盤技術、旧 シビアアクシデント技術マップについて、特定の分野で改訂例をまとめ、リンクを取った例を委員の方々に示す。この方向で進めてよいか審議していただき、秋の大会で RM 本体の委員会でも承認を得た後、本格的な改訂作業を進める。例として取り上げるものとして、幹事の専門分野、リンクの取りやすさを考え、旧 基盤技術については PWR、旧 シビアアクシデントについては MCCI を取り上げる。旧 基盤技術の新たな表の「原子炉格納容器の破損の防止」「溶融炉心・コンクリート相互作用」と、旧 シビアアクシデント技術マップの MCCI 部分とリンクを取る。
- 幅広く技術を取り上げる観点で、旧 シビアアクシデント技術マップには、炉心損傷前の重要現象も加える。この一例として、「ドライアウト/バーアンアウト」の項目の案を作成する。
- 上記のような改訂により、旧来の名称が表の実態と合わなくなっている。そのため、表の名称を変更する。旧 基盤技術は、「安全対策設備と関連現象」、旧 シビアアクシデント技術マップは、「基盤技術」としてはどうか。
- 資料 4 の新たな「技術基盤」の技術マップ (新名称は「安全対策設備と関連現象」) では、プライオリティ付けがなくなっており、研究のプライオリティが分からないのでは無いかとの意見があった。旧 基盤技術と旧 シビアアクシデント技術マップには、両方に研究のプライオリティが付けられており、相互に不整合がでる可能性もあると考え、資料 4 では、プライオリティ付けを無くし、規制要件をベースとして、必要な項目を抜けなく挙げた表とすることを考えた。よって、この方向で改訂を進めたい。
- 功刀先生のご不満は、技術マップが玄人向けになっているのが気に入らないのではないかと。電力からも複雑すぎて分からないと言われている。改訂時に留意する必要がある。
- 旧 シビアアクシデント技術マップの「②評価手法」には、解析コードに対する記載しか無い。解析コードを用いない評価もあるはずであり、記載方法を見直すべき。
- 旧 シビアアクシデント技術マップの「①想定される影響の度合い」には、現象論をもっと書き込むべきとの意見があった。
- 旧 基盤技術には個別課題票がある。これは改訂版でも残す方向とする。ただし、項目の追加や中身の整理は必要。

アクションアイテム：

- 資料 4 をベースに、「安全対策設備と関連現象」（旧 基盤技術）の表として、PWR 重大事故をメーカーの目で見直す。 担当：上田、山下（逢坂）
- 「基盤技術」（旧 シビアアクシデント技術マップ）の表は、MCCI 部分を例として修正案を作成する。 フォーマット修正担当：木藤、内容修正担当：中村（電中研）、西、逢坂（山下）
- 「基盤技術」（旧 シビアアクシデント技術マップ）の表を炉心損傷前まで拡大する例として、「ドライアウト、バーンアウト」の案を作成する。 担当：上遠野、岩城

以上